

# 社会全体で支える子どもの育ち



こどもの夢ネットワーク代表 ト蔵 康行  
(みやぎ里親支援センター「けやき」)

日本ハビタット協会は、KUWA CHOCO によるこどもの自立支援を行っております。若者達が社会とふれ合う機会と場をつくり、地域社会の理解と子ども達を受け入れるまちづくりのための、きっかけになればと願っております。社会的養護を必要とする子どもや若者の現状、そして、子どもを育む地域社会はどうあるべきかについて、KUWA CHOCO の商品包装や販売で協力下さっている「こどもの夢ネットワーク」のト蔵さんに話をうかがいました。

自分から望んで里親家庭や施設で暮らす子どもは、誰一人としていません。それは、虐待によって保護された子どもであっても同様です。子どもの年齢によって受け止め方はそれぞれですが、子どもの心の奥底にある思いは、同じ状況を経験した者でなければ、本当のところわかるものではありません。淋しさと一口に言ったところで一様ではないですし、切なさ、不条理感或いは怒りといったさまざまな複雑な思いが、子どもたちの心の中には沈殿しています。普段は楽しく生活していても、例えば、学校での親子行事の場面であったり、帰省する他の子どもの様子であったり、ふとしたきっかけで、そうした思いが蘇ってきたりするわけです。思春期ともなれば、より難しくなってくることにもなります。

同じように多くの親は、何も好き好んで自分の子どもを手放しているわけではありません。経済的な事情や病気など止むを得ない状況に追い込まれる親は少なくありません。そうした親は、子どもへの申し訳ないという思いを抱えながら生きていくこととなります。

里親や施設職員の働きは、実家庭から離れて暮らす子どもの安心、安全な生活の保障とその育ちを見守り、実家庭に戻す、或いは社会へと送り出すことです。見方を変えると親の重荷を下ろす働きでもあると言えます。子どもが幸せに育ち大人へと成長することによって、親の申し訳ないという思いを軽減するのです。子ども同様、親も幸せになる権利を持っていますし、親が幸せになることは、子どもの重荷を下ろすことにもなります。

しかし、現実的には、実親の生活状況は劇的には改善しにくいといえます。児童養護施設に入所する児童の約8割は、実親との交流(帰省、面会、通信等)がありますが、家庭復帰が容易に可能にはなりません。また、里親家庭で生活する子どもたちは、逆に実親との交流のない子どもが7割を占めています。特に施設に入所している子どもたちは、親からの支援を期待しにくい状況の中で独り社会に出ていくこととなります。以前に比べ、国の制度面では自立支援の施策が充実しつつありますが、まだまだ十分とは言えません。民間レベルでの支援も用意される必要があります。同時に、弱い状況にある実家庭への理解と支援も強化する必要があります。まずは、親と子の分離を防ぐための支援の充実ということです。「親の責任」で片づけることなく、周りの人の助けが必要な立場にいる人への理解をもって、親と子ども双方の幸せを実現することとなります。

全ての子どもの育ちと自立を市民レベルで応援し、支えることが求められています。



里親には4つの種類があるのを知っていますか？

養育里親

養子縁組里親

親族里親

専門里親



みやぎ里親支援センター「けやき」紹介動画

里親制度ってなんだろう？

<https://www.youtube.com/watch?v=Gm4cQRFVkuo&feature=youtu.be>



日本ハビタット協会は、KUWA CHOCO によるこどもの自立支援を行っています。  
みなさまのご支援ご協力よろしくおねがいたします。

KUWA CHOCO  
はこちら



認定 NPO 法人 日本ハビタット協会

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-6-3 都道府県会館 5 階福岡県東京事務所分室内

Tel/Fax: 03-3512-0355

E-mail: kuwa\_choco@habitat.or.jp

HP: www.habitat.or.jp

